

普及活動検討会実施報告書

(大崎) 農業改良普及センター
実施月日：令和7年1月31日
実施場所：大崎合同庁舎

1 検討内容

No	検 討 項 目
	(1) 令和6年度プロジェクト完了課題の実績報告 ・農地整備を契機とした地域営農体制の構築（課題 No. 1） ・子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立（課題 No. 4） (2) 令和7年度プロジェクト課題（案）の検討 ・色麻町の地域計画実現に向けた担い手の育成（課題 No. 1）【新規】 ・加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立（課題 No. 2） ・中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上（課題 No. 3） ・水稻乾田直播栽培技術の定着支援を通じた若手経営者の育成（課題 No. 4）【新規】 (3) 意見交換等

2 検討委員の構成

(単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	1
若手・女性農業者	(1)	学識経験者	
市 町 村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

※ () 欠席

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討項目【R6 完了】 「農地整備を契機 とした地域営農体 制の構築」	4.8	・法人のリーダーになる人材を養成してほしい。 ・清水地区の生産者に寄り添った多くの時間をかけた支援の実が実りつつあることが素晴らしいと思った。清水未来手帳の配布が特に良いと思った。 ・将来を見据えた営農体制はどの地区にも値する問題と思われる。個人ごとに経営形態と経営力が違う中でいかに意思を統一するかが本当に難しい。ワークショップを開いても参加しない方々への連絡方法として『未来手帳』を配布し考え方や方向性を示したやり方が素晴らしいと思う。今後、集落をまとめた高収益作物の作付計画をどのように作成するのか期待したい。 ・企画会議において、法人設立に向けた発起人会を令和7年2月に、法人設立を同10月とするスケジュールを設定し、高収益作物導入の方向性が見えたことで、ある程度の到達点に達したものと思われる。集落内での合意形成活動も定着した感があり、今後の法人活動にも期待が持てると感じた。 ・集落営農組織は、高齢化や担い手不足が進み、解散する組織が多い中、若手や女性も参画した中で法人化に向け進捗したことは、評価できる。令和7年10月の法人設立のスケジュールであり、継続支援の必要性を感じていたが、令和7年・8年も継続支援となることから安心した。この取組を、成功事例として、近隣の市町村にも広げていただきたい。	・本活動で実施した地域内の合意形成活動は、地域内で定着してきており、自発的に地域内で話し合いが進められつつある。今後は、発起人会が中心となって経営計画策定の話し合いを進められるよう、農地の利用方法や経営シミュレーションなど具体的な助言を行う予定である。引き続き、次年度からもプロジェクト課題として、関係機関と連携して法人設立や経営安定化を支援していく。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討項目【R6 完了】 「子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立」	5.0	・他地域への技術普及をお願いしたい。 ・子実用トウモロコシの収量がほ場によってばらついているので、それが解消されればよいと思った。輪作という長いスパンでの成果が着実に上がっていることが分かり良かった。子実用とうもろこしの品質の良さも知ることができ良かった。 ・3年で目標収量に届いたのは大変すばらしい実績と思う。雑草問題は、年々多くなっており、輪作体系を確立して講習会等で近隣 JA 管内にも教えていただきたい。 ・輪作体系による子実とうもろこし、子実とうもろこしの後作大豆の反収向上も実証された。大豆後の水稻の乾田直播では多少の課題は残ったものの、輪作による栽培技術は確立できたものと思われる。 ・関係機関が連携し、結果が出せた取組の一つとして、評価する。乾田直播による省力化、飼料作物の地産地消、地力改善による大豆の収量向上など、様々な課題に対応した取組と感じる。この取組は広がりを見せるので、引き続き支援をお願いしたい。	・子実用とうもろこしを含めた3年3作体系は、技術的にある程度確立し、経営的な面でのメリットも見えてきた。引き続き、雑草対策や収量確保に関する課題等を技術指導しながら、今後も関係機関と連携して、近隣 JA 等他地域へ技術を横展開してまいりたい。
検討項目【R7 継続】 「加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立」	4.3	・取り組みやすい“マニュアル”づくりから、土壌と気候とのマッチング技術を作成してほしい。 ・生産者個別対応のため、マニュアル作成や現地検討会がなされていることが良かった。 ・近年評価の高いさつまいもの栽培に取り組むには、苗の確保をいかに安価で手に入れるかが課題だと思う。今後の栽培マニュアルが確立されれば作業効率を考えた取組として広がると思う。 ・新たな産地形成に向け、着実に進んでいる点を評価する。日本のさつまいもの輸出については、10年間で20%の伸びをみせ、国内の需要も伸びている作物であることから、内陸部での産地化に向け、引き続き支援願いたい。	・今年度は現地検討会等で情報共有を行いながら、新規作付者の技術課題を把握し、加美地域の土壌や気候を踏まえた栽培マニュアル（初年版）を作成することができた。次年度もさらに改良を加えたマニュアルを作成し、加美地域ならではのさつまいも栽培が実践できるよう、引き続き、関係機関と連携しながら技術指導していく。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討項目【R7 継続】 「中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上」	4.5	・近隣観光施設の来客の取り込みに向け、SNS 等での技術発信が必要と思う。 ・直売所が各地で増えていく中で、「やくらい」ならではの直売所運営が求められているのだと思う。 ・私の知っている「やくらい土産センター」は、高齢者だけの生産集団というイメージが強かった。若手組合員を取り入れて進む形は大変良いと思うし、色々なアイデアも生まれる。今後も盛況な運営ができるよう JA も生産者に色々な野菜の普及啓蒙をしていきたい。 ・経営の改善は非常に難しい取組であると認識している。若手生産者の役員参入、「プラビラボ」の活動をとおり、組織全体の活力を上げる取組を引き続きお願いしたい。	・今年度の総会で若手組合員が理事となり、理事会でも積極的な発言がみられ、若手組合員が中心となったイベントを今年度は2回開催するなど、若手理事が積極的に動くことで、組織の活性化が図られつつある。引き続き、経営陣の意向を丁寧に聞き取りながら、経営継承に向けた行程の検討を進めたい。 ・コロナ禍で中断していたが、集客力のある近隣施設との連携したイベントが復活したので、当該直売所への誘客に結びつくように、売り場改善など若手組合員のアイデアを引き出しながら、より効果のある集客活動に向け、引き続き、助言していきたい。
検討項目【R7 新規】 「色麻町の地域計画実現に向けた担い手の育成」	4.0	・30 代の人材はいるのか。若い人を取り込む手法を指導してほしい。 ・下高城ふああむ、清水営農組合2つの組合を対象にした広域な活動である。 ・担い手不足等を考えると労力の省力化が必要だが、投資力の確保も大切で過剰投資にならない見極めが必要と考える。ただし、法人や集落営農組織へ委託した農家を見ると後継者が地域から出てしまっていることが多い。今後は過疎対策も同時に行なわなければならないと思うときがある。 ・若手から女性まで参画した中での法人化を目指す取組は、地域計画を進める上でもモデルとなる取組であると考え。是非、成功モデルとして、広めていただきたい。	・地域計画の実現に向けて、担い手となる農業法人や集落営農組合の持続的な経営発展を図れるよう、後継者や若い世代も含めて、対象経営体それぞれの課題やニーズに合った支援を行うとともに、町内法人間の情報交換など、町やJAと連携しながら取り組んでまいりたい。 ・また、本課題以外で重点活動でも管内農業法人の経営継承等の経営課題やニーズを把握し支援していくこととしている。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討項目【R7 新規】 「水稲乾田直播栽培技術の定着支援を通じた若手経営者の育成」	4.0	・モデル経営体の育成は重要。技術の普及方法も同時にしてほしい。 ・若手のお二人がそれぞれの生産者としての取組のほか、水稲乾田直播にも目を向け勧めようとしている中で様々な具体的な支援を考えていることが良い。 ・2か所の担い手の方々の今後が大変楽しみだ。特に肉牛一貫経営の対象者に期待する。 ・今後の農業は、水稲乾田直播へ切り替わっていくと考えている。除草、肥培管理、収量、食味など課題解決に向けた研究は進んでいると思うが、農業者が取り組みやすくなるよう、プロジェクトの成果の情報共有など、普及に向けた取組をお願いしたい。	・本課題で水稲乾田直播栽培の技術定着を支援し、将来の地域農業を担う若手農業者の経営力のレベルアップにつながるよう JA 等関係機関と連携しながら進めてまいりたい。また、現地検討会等を通じて地域内の他農業者への情報共有や技術普及を行っていききたい。
その他		・農業における課題は、どの地域においても同様だと思う。優良事例については、農業者と共有し、普及する取組を引き続きお願いしたい。	・普及活動で得られた優良事例は、現地検討会や集合研修等で広く紹介するなど、機会を捉えて農業者と共有してまいりたい。